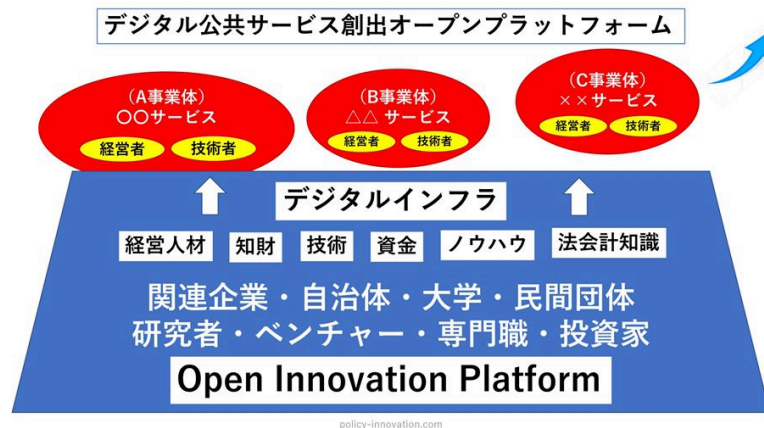




No.035 九州デジタルガバメント構想 (その6) 実現プロセスの第一段階はプラットフォーム



プラットフォームのイメージ(谷口作成)

デジタルデータを使えばどんな公共サービスが可能になるのか、まだ分かっているわけではありません。まずやってみよう、その環境を作ることがデジタルトランスフォーメーションの第一歩です。

どんな公共サービスへのニーズがあるか、それに対してどのようなデジタルソリューションがあるかをビジネス目線、ユーザー目線で徹底的に洗いだし、アジャイル型のソフト開発でPoC(概念実証)にとどまらず社会実装までやってみる、そのエコシステムを形成するのがプラットフォームの役割です。

駅のプラットフォームにはいろいろな人がいて、同じ目的地に向かう人が電車に乗り込みます。

同じように、デジタル技術者や民間事業者、行政マン、投資家など、産学官民いろいろな人がプラットフォーム上で交わり、事業化できそうだと思う事業体を作って次々に出発する。そんなイメージです。実際に公共サービスを提供するのは個別の事業体で、プラットフォームはそのローンチのための場を提供するものです。ですから当面は構えの大きい組織を作る必要はありません。

この事業体はサービス分野や事業内容はそれぞれ違っていても、社会課題を解決するという共通のミッションを持っています。デジタルデータを活用して地域住民の生活を飛躍的に便利にし、地域経済を良くしたいという思いを持った人が、出身組織の利益を代表するのではなく、独立した個人として参画する共同体です。

そういうリーンスタートアップを産み育てるオープンイノベーションプラットフォームが将来のデジタルガバメントに変貌していくのです。